

家畜衛生だより

紀北家畜保健衛生所
紀南家畜保健衛生所
東牟婁支所

平成28年2月号

TEL 073-462-0500
TEL 0739-47-0974
TEL 0735-58-1481

近畿圏で牛ボツリヌス症が発生しています！

平成27年、京都府・奈良県の2府県で牛ボツリヌス症の発生報告がありました。

ここ数年全国でも散発しており、平成24年岐阜県の発生では約1ヶ月間で45頭が死亡し、大きな被害となっています。

牛ボツリヌス症とは

ボツリヌス菌(*Clostridium botulinum*)は酸素がない環境でのみ増殖する嫌気性菌で、本菌が産生する毒素を摂取することにより発症します。毒素に汚染された変敗サイレージや飼料の採食による発症や、菌を保持する野生動物(特にカラス)の牛舎への侵入により糞便で汚染された飼料・水の摂取が原因となるケースもあります。さらに、感染した牛の糞便中にも排菌され周囲を汚染し、同居牛の発症が続発することもあります。

毒素はA~G型まで7種類ありますが、牛が発症するのはC型またはD型菌で、人にうつることはありません。

これらの毒素は末梢神経に作用し、進行性の運動麻痺を特徴とします。筋肉麻痺、舌麻痺、咀嚼・嚥下困難となるため、症状は食欲不振・活力低下から始まり、流涎・舌の下垂・腹式呼吸の症状や後軀麻痺・起立不能を呈します。呼吸麻痺・窒息により1-3日以内に急死するケースもあります。特に多頭飼育農家で目立ち、発症した場合には致死率の高い恐ろしい病気です。



予防・対策

ボツリヌス菌は、パコマなどの一般的な消毒が無効な『芽胞形成菌』のため一旦発生すると清浄化が難しい病気です。ワクチンで発症は予防できますが感染を防ぐことはできません。周囲の環境の汚染機会を減らしていくためにも、飼養衛生管理の徹底が予防の基本となります。

- * 野生鳥獣(特にカラス)の侵入防止
- * 飼槽/水槽の定期的な清掃
- * サイレージの適正な調整
- * 適切な堆肥処理

◎消毒薬は塩素系(クレンテ、ビルコン)、ヨード系、アルデヒド系(グルター-Z)が有効です。

その他ご質問等がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所にお尋ねください。